

2017 年度活動報告 留学生 Week

山本 真理（関西学院大学日本語教育センター）

1. 概要

留学生 Week は本学の国際化を背景とし、2007 年より毎年 6 月に開催されている。開催の目的は、第一に留学生（学部留学生・交換学生）の日本語学習成果の発表の場を提供すること、第二に本学の日本人学生と留学生の交流の機会を提供することである。本年は 2017 年 6 月 5 日～9 日に第 11 回留学生 Week を開催した。期間中、日本語教育センターが主導して行った活動（後述）のほかに、国際教育・協力センターが主導となり、交換学生による自国・大学紹介（英語で実施）、日本文化に関するイベント（日本文化体験（書道）、折り紙&七夕、映画鑑賞会）などが行われた。さらに、大学生協の後援で学生食堂において「各国ランチフェア」が行われた。以下では、日本語教育センターが主導して行った活動について詳しく報告する。

2. 日本語教育センターが企画運営した活動

本センターでは、3 つの活動を企画運営した。まず、「COOL JAPAN トークショー in Japanese」を 5 日（月）の 5 限にフジタグローバルラウンジで行った。これは、交換学生 10 名が日本で「COOL！（かっこいい）」と思った日本のバラエティ番組や、祭り、日本で見つけたおもしろグッズなどを日本語で紹介するものである。留学生や日本人学生が来場し、互いの文化の相違点に気がつくよい機会となった。

また、「スピーチ発表会」を 6 月 9 日（金）の 1・2 限に中央講堂で行った。学部留学生 13 名・交換学生 22 名が日本語で発表した。日本語レベルに関わらず、日ごろの練習成果を発揮し、互いの日本や留学に対する想いを披露することができた。

さらに、本学の学生および教員に日本語教育センターの活動内容を広く知ってもらうことを目的とし、図書館前で活動内容を紹介したパネル展示を行った。

3. 成果と今後の課題

スピーチ発表会に参加した日本人学生から「非常に興味深い内容だった」「私もスピーチをしてみたいと思った」など好意的な感想が聞かれ、有意義なイベントとなった。その一方で、日本人学生の参加者数には課題があり、さらに増やす必要がある。今後は、留学生 Week 期間中は授業時間に留学生が教室を飛び出し、日本人学生にインタビューをするなど、交流の機会をつくる仕掛けをつくりたいと考えている。